

短い物語

月宮悠

初恋のお守り

死ぬなよ。

血で汚れたお守りを握りしめ、担架で手術室へと運び込まれる友を励ましながら見送った。

交通事故、それも完全な相手の過失。友人は為す術なしに跳ね飛ばされ、意識不明の重体で救急車に運ばれた。

まったくツイてねえな。

吐き捨てるように呟いたのは、運転していた男だった。

俺の中で、何かが切れた。

何回殴ったか分からない。大人相手にどうやって馬乗りになったのかも覚えてない。

相手の顔面は血だらけで、身体が痙攣していた。

看護師が集まり、医者を呼び、治療室へ運ばれて行く。

やり過ぎだ。

そう医者に言われた。怒鳴りもせず、叱りつけるわけでもなく、静かにそう言った。

俺は許せなかった。誰が許しても俺は許せない。

全く反省もせず、たまたま事故ただけで、俺が被害者だと言わんばかりのその態度に。

俺はどうなってもいいと思った。もし友が死んだら、仇は取ったと報告してやろう。

そのまま、警察へ向かおうとした時だった。

ありがとう。

いきなり話しかけられた。

誰かと思うと、被害者遺族という。意味が分からなかった。

さっき、あなたが殴った男は、私の兄を殺した犯人です。

話によると、数年前にこの人の兄を殺害し、刑務所へ服役していたのだという。

でも、それは殺人罪ではないんです。証拠も無いし、アリバイもあるんです。

じゃあなんでアイツが犯人なの。

凶器に、兄が贈ったサバイバルナイフが使われていたから。

それ証拠じゃん。

アイツは、警察の上層部の息子なんです。

つまり、もみ消されたってこと。殺人を。

はい。ですから、司法の裁きはありません。しかし、私が何をしても抵抗にならないし、殺したって兄は返ってこない。

で、俺が代わりに殴ったようになったと。

あなたにとってはどうでもいいことかも知れない。けれど、私は少しスッキリしました。

.....もし良かったら、俺が君を守ってやるよ。

えっ.....

もう、お兄さんいないんだろ？ だったら俺が....

ありがとう、でも私、結婚してるから。

ごめん、随分年下だと思ってた。

いいのよ、中学生にも間違われることあるし。じゃあ、お元気で。

その女性を見送ると、手術ランプが消えた。

友は一命を取り留めた。

俺が殴った馬鹿野郎も命に別条はなかった。

友は夢で中学生ぐらいの女性に死の淵から助けて貰ったと言う。

そして、なぜか今更凶器が見つかり、証拠が固まったということで、馬鹿野郎は殺人罪で裁かれることになった。

もちろん、俺は自首しようとしたが、なぜかお咎め無しだった。

後で聞いたことだが、友が夢で見た女性は、昔お世話になった初恋の人で、お守りもその人から貰ったらしい。

それから毎年、俺と友はその女性の墓参りをしている。

全て偶然じゃないよな。

ありがとう。